

過去の出来事に着想を得た歴史文芸は、古今東西、様々なテキストを生み出し、人々の関心は現在も衰える所を知りません。歴史的に豊かな環境を誇る熊本も、様々な形で歴史文芸に素材を提供しました。一方、特に劇映画・テレビドラマの場合、歴史文芸の製作の中心は長く、京都・東京であり、教育・研究の中心も同様です。熊本を基点に、歴史文芸の未来を見通せないか?可能性を探ります。

聴講無料

要申込

対面
100名+ 配信
100名

報告

澤田正二郎研究と地域社会

問題提起と共に

羽鳥 隆英 (熊本県立大学文学部日本語日本文学科准教授/兼司会)

1982年、千葉県生。早稲田大学坪内博士記念演劇博物館助手、新潟大学人文学部助教、国際日本文化研究センター客員准教授等を経、現職。



講演

風景は誰のものか

熊本と歴史ドラマ、点の誘致から面の物語へ

高橋 剣 (元・東映株式会社京都撮影所スタジオ事業部長)

1964年、東京都生。剣劇の豊かな文芸資源を有する東映株式会社京都撮影所に入り、様々な劇映画・テレビドラマの製作に携わると共に、グローバル視点の下、歴史文芸の可能性を見詰め直すべく、京都ヒストリカ国際映画祭を旗揚げ。プログラム・ディレクターを務め、来る12月に第18回の開幕を控える。

2026年 10月3日[土] 13:00~15:00
(開場12:30)

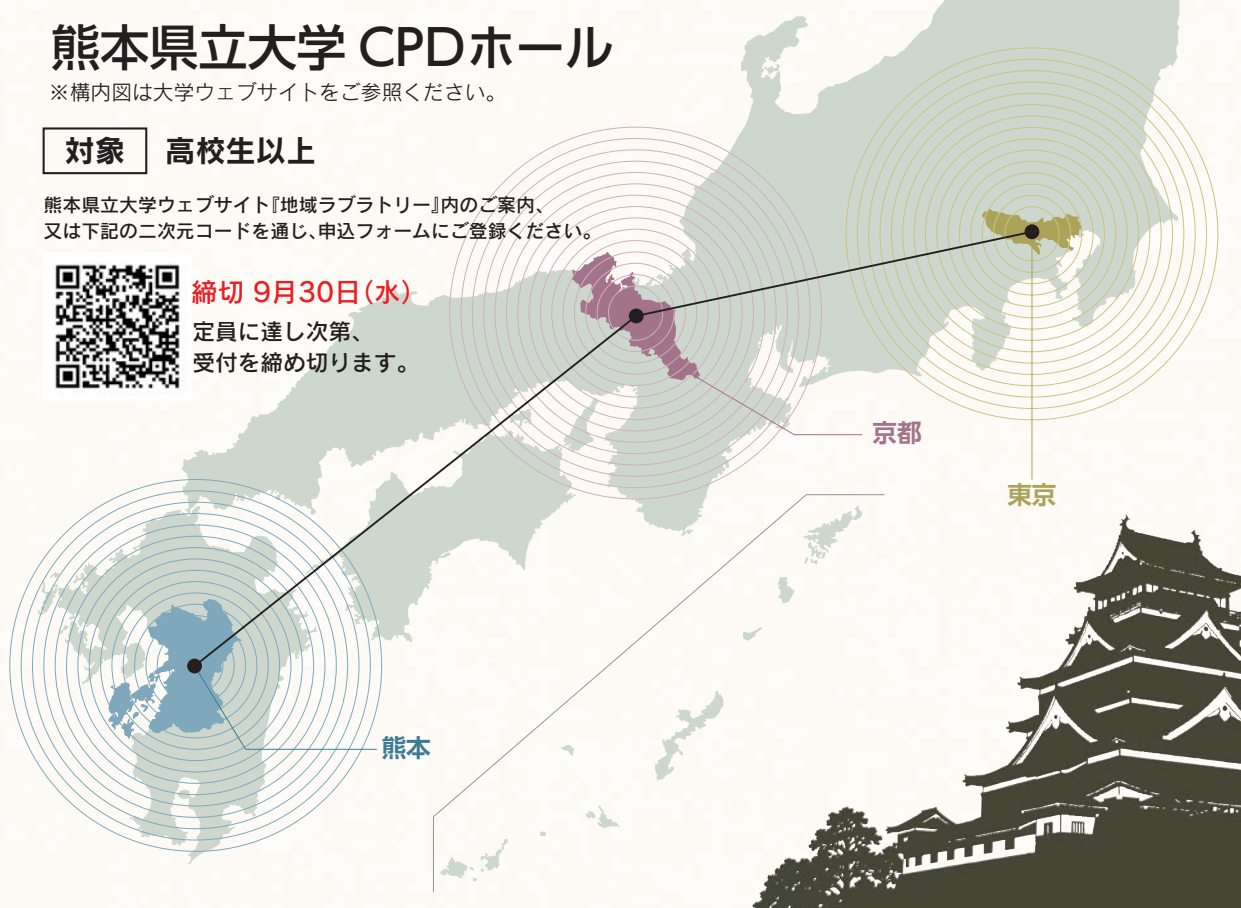
熊本県立大学 CPDホール

※構内図は大学ウェブサイトをご参照ください。

対象 高校生以上

熊本県立大学ウェブサイト『地域ラブラトリー』内のご案内、
又は下記の二次元コードを通じ、申込フォームにご登録ください。

締切 9月30日(水)

定員に達し次第、
受付を締め切ります。

歴史文芸と地域社会

— 過去と未来 —

熊本県立大学公開講演会・研究成果報告会